

ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの再開

2011.04.06

函館市内近郊は B 型インフルエンザの大流行で、なかなか収まる気配がありません。新年度が始まったのにもかかわらず流行が続いておりますので、新入生の間に流行が広まらないか今後一層の警戒が必要です。また、12月頃に少しだけ流行した B 型とは違う型が流行しているようで、今シーズン B 型に罹ったというお子さんも気が抜けません。

さて、3月初めに何人かのお子さんがヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンをしたあとに同じような状況で亡くなったという報道がありました。日本では、原因不明で死亡する乳児が毎年約 150 名いて、偶然にも死亡した日から遡ればヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンをしていた事実がある子が数名続けていたと説明されなければならないのですが、報道は押しなべてワクチンで死亡を印象づける感じでした。その後の中止劇は皆さんご存知のとおりです。

数回の専門家の検討、および亡くなったお子さんの解剖の所見により、ワクチンとの因果関係は認められず、同時接種もそのまま継続されることとなり、ワクチンの遅れによる新たな細菌性髄膜炎の発生は最小限に留められる事となりました。

ワクチンの同時接種に関しては戸惑うことも多いかも知れませんが、保護者の方が不安に思われるのであれば、ひとつずつ接種をするということも可能です。ただ、その場合は免疫を獲得する時期が遅れるばかりではなく、通院回数の増加による他の感染症のリスクも増えることは容易に想像されますので、かかりつけの先生とよくご相談の上、接種方法も含めてお決めください。不安で気持ちが揺らぐことも多いかも知れませんが、ワクチンそのものも、同時接種という手技も日本ばかりではなく世界中で行われているスタンダードなものです。どうか安心して接種を受けることをお願いします。

ワクチンで予防できるものはワクチンで予防することは、子供にとっても社会にとっても最もいい方法であることは疑いのない事実です。ワクチンで子どもを病気から守れる人はあなたしかいませんから。